

合同図書館 利用実態調査報告 [1]

～ご利用とご理解を～

昨年、合同図書館では、会員各位の協力を得て、2種類（郵送・面接）の利用実態調査を行なった。今回から3回にわたり、この実態調査の結果について報告する。なお、調査結果を分析した報告書（合同図書館委員会と慶應義塾大学大学院文学研究科図書館・情報学 高野沙弥・浅沼愛九両氏との共著）は、図書館内に備えてある。

1. 全般的な利用満足度について（図1参照）

5段階評価による利用満足度を測ったところ、全体の7割以上の回答が「3」ないし「4」に集中した。

項目別にみても「館内掲示などの見やすさ」「職員の対応の迅速さ」「蔵書の充実度」などの項目で高い評価を得ている。

合同図書館を運営する立場としては喜ばしいことであり、今後もさらに利用者にとって使いやすい図書館づくりに励んでいきたい。

2. 合同図書館のサービスに関する 「要望」について（図2参照）

利用者から寄せられた合同図書館利用に際してのサービス要望は図2のとおり。

このうち特に要望が多かった以下の2点について実情を説明する。

（1）新刊書が少ない

合同図書館では、毎月250冊～300冊程度図書を購入しており、そのほとんどが新刊書である。

ただ、残念なことに、購入済みで、コンピュータの蔵書検索でも蔵書として入力済みの本が、本棚に並ぶまでに若干（2～3か月）時間がかかっている。

というのは、書名や著者名をコンピュータに入力しただけでは、キーワードなどから本を検索することができない。そこで、図書の内容を把握した上で、利用者が検索しやすいように、図書の内容を的確に表す語句を蔵書管理システムに入力していく必要がある。この作業は図書館職員が日常の貸出・返却業務と並行して行なっているが、熟練を要することもあり、新着図書の山と日々格闘しているのが実情である。

この作業が完了した後に、新着図書は図書館の本棚に並べられる。

本棚に並ぶ前の新着図書についても、書名や著者名の入力が終われば、コンピュータの蔵書検索でも蔵書として確認はできる。本棚だけを見て無いと諦めてしまう前に、是非、蔵書検索あるいは図書館職員にお尋ねいただきたい。ご要望があれば、本棚に並ぶ前の図書でも貸し出している。

（2）開館時間を延長して欲しい

当初は午後4時45分閉館だったが、2000年に午後5時45分までに延長した。延長時間帯の利用者数は、1日の利用者数の3%前後で推移しており、これまでのところ増加傾向にはない。会員のニーズについては引き続き検討を継続するが、早期実現ということは難しいと思われる。

*次回へ続く

（合同図書館委員会副委員長 甲斐 順子〔二弁〕）

図1 利用満足度分布

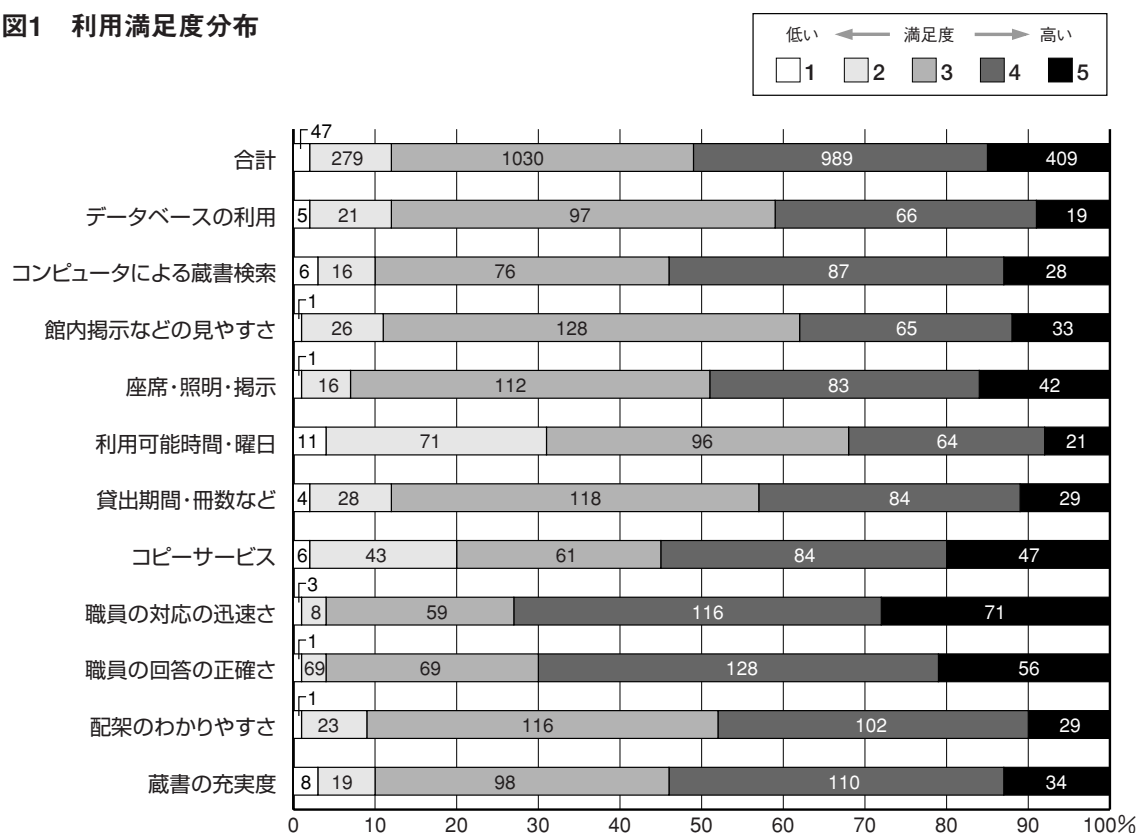


図2 サービス要望

